たくさんのメディアにも取り上げていただいております。

Media 04

鹿児島県産人工種苗の養殖カンパチ初出荷

●水産経済新聞 2013年9月30日「養殖新大陸」連載第5回

The Daily 2013.9.30.mon
Sui-Kei
日刊水産経済新聞
http://www.suikei.co.jp/

鹿児島県 県産人工種苗の養殖カンパチ初出荷

「養殖新大陸」
～豪州の新たなフロンティアを目指して～
連載第5回

輸入種苗に依存しない生産体制構築へ

鹿児島県・錦江湾の「JFねじめ漁協」が去る7月26日、県産人工種苗で育成した養殖カンパチを初出荷した。全国一のカンパチ生産を誇る鹿児島県では12年前、輸入種苗に依存しない「鹿児島生まれ、鹿児島育ち」のカンパチ生産を目指し、人工種苗を独自に生産するプロジェクトに着手。錦江湾出荷の漁協が育成に協力し、さまざまな課題を克服しながら今回の成果に至った。県と生産者が共同で、カンパチの種苗生産と育成に取り組むのは、全国初の試み。今回は、鹿児島県の生産者が自指すカンパチ養殖にスポットをあて紹介する。

（大阪支局長・中村真也）

「かごしま生まれ、かごしま育ち」の横断幕を掲げて出発する活魚車

誕生！「鹿児島生まれ、鹿児島育ち」のカンパチ

本土最南端の町、鹿児島・南大隅町。

関係者の期待の高まるなか、錦江湾（通称・錦江湾）に面した「丸秀水産」（鹿児島県）の生簀から、養殖カンパチが初出荷されたのは、8月（りん）とも水産（小浜静志社長）である。

7月31日、錦江湾の生簀から、養殖カンパチ約3,000尾が、初出荷された。

鹿児島県の養殖カンパチは、ほとんどが、県外産の種苗を用いており、おおよそ4年前、輸入種苗に依存しない、鹿児島生まれ、鹿児島育ちのカンパチ養殖を目指す、プロジェクトが始まった。

県は、水揚げされた成魚カンパチの中から、産卵期の親魚を選別し、人工授精させ、ふ化させた。

ふ化した稚魚は、約1ヶ月間、陸上の水槽で育てられ、その後、海に移され、約3ヶ月間、海上の生簀で育てられ、稚魚から、体長3～5センチのカンパチ約3,000尾を生産した。

県は、水揚げされたカンパチの親魚を、「丸秀水産」（小浜静志社長）で、今回初出荷されたカンパチ約3,000尾を生産した。

県は、水揚げされたカンパチの親魚を、「丸秀水産」（小浜静志社長）で、今回初出荷されたカンパチ約3,000尾を生産した。

県は、水揚げされたカンパチの親魚を、「丸秀水産」（小浜静志社長）で、今回初出荷されたカンパチ約3,000尾を生産した。

全国一の産地―安定供給、安全・安心な人工種苗生産へ

現在、養殖カンパチで、国・海外問わからベトナム出いるが、養殖されて、種苗を主産地となるのは、中国からの輸入に依存している。

本格的な輸入が始まったのは、昭和60年ごろ、日本南端の鹿児島県の養殖カンパチの産卵親魚は、中国の養殖カンパチの産卵親魚は、中国の養殖カンパチの産卵親魚は、中国